

## 平成23年度 全校集会校長講話

平成23年12月22日

早いもので、東日本大震災からもう9カ月以上の時が流れました。そして今年もいよいよ年末が近づき、いよいよ3年生の生徒諸君には、大学入試センター試験が目の前に見えてきました。このように月日の流れは速く、皆さんが社会人になるころには、今以上のスピードで社会が変化し、経済不況からもおそらく完全には脱し切れていないでしょう。産業構造の変化やグローバル社会への急激な進展に伴い、これまでの枠組みや制度がどんどん変移し、新たな仕組みづくりへの転換が求められています。



このような時代だからこそ、現状を打ち破る新しい英知と、若いエネルギーが必要とされます。それだけに、次の時代を担うリーダーとなる皆さんの今後の活躍への期待は、ますます高まっています。

そんな思いを込めて、この機会にこれから一つの話进行いたします。是非、聞いてください。

それは、世界の喜劇王として活躍し、今も多くの人たちに愛され、二十世紀を代表する映画人として生きた「チャールズ・チャップリン」についての話です。

今から120年ほど前の1889年、彼はイギリスのロンドンに生まれ、貧しい幼少時代を過ごしました。兄の勧めで入った劇団で、アメリカ巡業中にその才能を認められ、映画界に入ります。やがて「街の灯」「モダンタイムズ」「ライムライト」など、彼の作る作品は次々に大ヒットをします。

アメリカ映画界での大成功と、地位と名誉の獲得、そしてその反動と誤解によるアメリカからの国外追放。栄光と挫折。波乱の時代と厳しい人生の大波の渦中に投げ込まれながらも、彼は立ち止らず、次々と名作を作り続けたのです。

そんなチャップリンに、ある時、新聞記者が質問をします。「あなたの最高傑作の作品は何ですか？」と、その時彼はこう答えました。「NEXT ONE」、すなわち「次の作品だ」と言ったのです。アカデミー賞も受賞し、映画界の頂点まで上り詰めた彼が、現状の栄光にこだわらずそして満足せず、さらに次の高みや新しい目標をめざして生きていこうとするその姿勢に、周囲の人々は驚いたと言います。

ここまでやったらもう満足だと思えば、人間の成長はそこで止まってしまうものです。チャップリンは、現状に安心し満足するのではなく、まだまだこれからだという気概・気迫、そして常に向上心を持ち、あきらめない生き方を貫きました。

現代のような混迷の時代にあっては、現状に甘んじず、挑戦する心が大切です。皆さんには、東高生には、この「NEXT ONE」の言葉どおり、常に前を向き、自分の可能性を拡げる努力を続けられる人、その信念を持って生きる人であって欲しいと思います。

「NEXT ONE」

今ここにいる全ての東高生に、このことを強く期待しています。

大垣東高等学校長 浅野裕司

